

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名前		アシャリフ モハマッド レザー		所属		工学部 情報工学科		職名		教授	
領域	業務ウエイト比(予定)	平成27年度 年度目標設定				業務ウエイト比(実績)	平成27年度 年度末自己点検結果				
教育・学生支援	0.50	学部担当科目: DSP, Simulation, 先端情報工学概論(1/4)、Frontier Engineering (URSP)に担当教員英語で行う、Technical English Presentation(技術英語発表)。大学院担当科目: 信号処理論、Technical Reading & Writing, Signal Processing Theory (for special course in English), Overview of Engineering Program (for special course in English)。博士(後期課程担当科目: 音響信号処理特論(Acoustic Signal Processing) (given in English for Japanese or Foreign students)。学生支援: 卒業生7人、修士4人(2人留学生)、博士1人、計12名				0.40	DSP:前期行いました。Simulation:後期行いました。先端情報工学概論後期行いました。URSEP(Frontier Engineering)後期行いました。大学院担当科目: 信号処理論前期行いました。Technical Reading & Writing (TRW)前期行いました。Overview of Special Program for Engineering:講義担当後期行いました。Signal Processing Theory (for special course in English)後期行いました。博士(後期課程担当科目: 音響信号処理特論(Acoustic Signal Processing)開講なし。Technical English Presentation (技術英語プレゼン): 講義担当後期行いました、英語で卒業論文発表しました。				
研究	0.20	Various kind of researches mostly related to Speech & Image & Digital Signal Processing and Communications are under consideration such as: Command & Control for Air Request Processing, GA, Software Defined Radios (SDR), Tactical Communications, Secure Radio Telecommunications, Support Vector Machine (SVM) Classification, 3D Virtual Environment, EEG, Blind Component Processing, Non-Linear Echo Cancelling, Image Authentication by Phase-Only-Correlation, Wireless Tele-Control System Considering Equalization. In my lab. last year, we published many papers and attending many conferences. In coming year we will also consider to present in ACDT2015 Thailand, ITC-CSCC 2015 Korea, WorldComp' 15 Las Vegas, SIP 2015, and Joint Conference of the IEEE etc.				0.20	左題名の研究について2015年国際学会6件掲載と発表しました。国際学会はACDT 2015 Hua Hin Thailand (1件)とWorldComp 2015 Las Vegas (2件)とICIBMS 2015 (3件)に行いました。Collaboration withテヘラン大学と大阪府立大学共同研究進みました。				
社会貢献	0.10	As a foreigner professor, I would like to involve in more international activities in University of the Ryukyus. Collaboration of various researches based on the agreemnt between University of the Ryukyus and University of Tehran (Faculty of Engineering) and to sustain it for 17 years since 1998. 今年もまた共同研究行予定です。大阪府立大学から山下先生と共同研究行し、継続予定です。Also, collaboration of various researches based on the agreemnt between University of the Ryukyus and Chungbuk National University, Korea (Faculty of Engineering) with Prof. Heung Gyoon Ryu. This year I'll plan to invite another professor from Tehran University.				0.10	昨下記講演会行いました。I invited Prof. S. Kamaledin Setarehdan of Tehran University (Near Infrared Lab., School of Electrical and Computer Eng., University of Tehran, Iran.) to give lectures infunctional near-infrared spectroscopy (fNIRS): Theory, Applications, Design and development of a laboratory 16 channel functional near-infrared spectroscopy system, through International budget (2016/2/20-28).				
管理運営	0.20	今年は情報工学科専攻主任、国際交流委員会委員(Member of Advisory of Foreign Students)、教務委員会委員、学生交流専門委員会委員、特別コース運営委員会委員などの委員会活動に積極的に参加する予定。その他、研究推進委員会委員もやっております。				0.20	情報工学科専攻主任、国際交流委員会委員、学生交流専門委員会委員、特別コース運営委員会委員、研究推進委員会委員などの委員会活動に積極的に参加しました。				
進路指導	0.00	卒業生7名、修士4名(一名私費留学生一名国費留学生)、博士1人				0.10	卒業生5人卒業し内2名修士課程進学しました。修士1人(私費留学生)修了しました。				
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前	玉城 史朗		所 属	工学部 情報工学科		職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	情報工学科基礎教育科目である「情報数学I,II」の講義について、学生に、より理解を深めさせるため、講義・演習を含めた教科書を執筆する。そして、学生からのフィードバックを反映させて、充実した講義になるよう努力を行う。その他、学生の目的意識を高めるための講義を行う。また、今年度4年目である県内全大学インターンシップ(社長弟子入りツアー)の引率と、事前事後指導を行う。		0.30	最近、学生の計算能力が低下しているように感じられる。情報工学科基礎教育科目「情報数学I, II」においては、理解を深めさせるために、講義内容の説明の後、演習(計算)問題を提示し、具体的な解答例を板書しながら説明するように心がけた。学生からの反応はおおむね好評で、講義の後は、常に質問等に対応していた。なお、情報数学の本は、ほぼ完成している。学生指導としては、県内7大学(本学6名)の学生を引率して社長弟子入りツアーを成功させた。		
研究	0.35	現在、科学研究費による課題が3年目となっている。この途中成果として、学会誌3編、また、国際会議3編を予定している。また、共同研究としては、1)Weather News社とのゲリラ降雨予測、2)沖縄高専との自律農業用走行ロボットの開発を行う。また、OIST、高専、琉大がジョイントした工学系国際会議の委員長を務める。		0.30	科学研究費による課題が今年度修了する。最後に残された課題はフィールド試験による評価であるが、4月中には終了めどが立っている。この課題では論文10編国際会議12編の成果であった。また、JSTのマッチングプランに応募・受託し、最適なイチゴCO2施用計画を来年度まで行う。		
社会 貢献	0.15	官学共同研究として冷熱を用いた魚類の陸上養殖と自然エネルギーの地産地消を推進するために、中城村とタイアップしたプロジェクトを行う予定である。また、レキオパワーと共同で、非接触電磁コイルを用いたLED通信システムの開発を予定している。		0.15	産学連携を積極的に推進しており、現在、「降雨レーダーによるゲリラ降雨の予測」、「雷レーダーを用いた雷の予測解析」、「沖縄自動y車道における在来植物の植栽」糖の共同研究をを企業と行っており、その成果が徐々に実を結びつつある。		
管理 運営	0.15	本学の輸出管理マネージャーとして、全学の知的財産が、不当に第三国に輸出されないような仕組み作り、管理を行う予定である。また、全学的な学術評価委委員として活動を行う予定である。		0.10	本学の輸出管理マネージャーとして、全学の知的財産が、不当に第三国に輸出されないような仕組み作り、管理の枠組みを策定した。この仕組みは、来年度、特に、海外出張を行う教員に「安心・安全」な研究活動を保証するものである。		
その他	0.05	学生が主体であるキャンパスの清掃、緑化をもく定期としたエコキャンパス委員会の世話人を務め、特に、在来種芝の植栽を学生たちと共に行っていく予定である。		0.15	エコキャンパス活動の一環として大学内に在来種の植栽を行った。琉大工学部、OIST、沖縄高専が主催した「高度情報処理と生物医科学国際会議(ICIIBMS)」の実行委員長を務めた。この会議の参加者は、総数165名(海外65名、県外60名、県内40名)で大盛況であった。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		和田知久	所 属		工学部 情報工学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.30	1) 担当科目で、JABEE基準並みで実施をする。 2) 設計関連講義で、実習を取り入れた実践的内容を実施する。 3) 道徳・倫理関連の講義をさらに充実したものにする。 4) 教員免許講習他、通常外の講義・教育を積極的に担当する。		0.25	1) H27年度も順調に、JABEE基準並みでの講義を実施した。2) 特にVLSI設計関連では、今年度で19回目となるLSIデザインコンテストに受講生全員を応募させることができた。 3) 情報倫理では、H27年度に初めて自作の教科書を作成し、教科書の効果もあり従来より内容の深い講義実践ができた。 4) 教員免許更新講習も2件の貢献を行った。
研究	0.30	1) 大学院学生の国際学会発表を実現する。 2) 交流協定を活用し国際研究を活性化し、成果を出す。 3) 複数の外部資金を取得する。		0.25	1) 今年度はここ数年新たに取り組み始めた水中音響通信で、IEEE国際会議で発表することができた。 2) 交流協定校のベトナムハノイ科学技術大学に、学生を短期留学させ、合わせて訪問も行う学術交流を実施した。共同で国際プロジェクト等への資金の応募を実施し、少しずつではあるが国際供養同研究に向けての準備が整いつつある。 3) 2件の外部資金を得た。内1件は、静岡県内の県外企業であり、今年度の交流が深まってきており、次年度には共同での国際学会発表を予定し、共同研究の依頼の申し出を受けている。
社会 貢献	0.15	1) 研究の実応用として、企業との開発研究に取り組む 2) 高大連携出前講義等に積極的ににかかわる		0.20	1) 水中音響通信関連で、企業との共同開発を実施しており、JAMSTECのしんかい6500等の潜水艦に応用できる通信装置の試作を進めている。1000mレベルの深海からの通信実験を行っており、次年度には大きな成果を出せる予定である。 2) 従来からの美来工科高校の学生受け入れを学科で実施継続し、研究発表会にも学科複数教員が参加することができた。また、個人的に出前講義を実施することができた。
管理 運営	0.15	1) 学科長の仕事をしながら、少ない会議時間、ITでの効率的運営をめざす。 2) その他学内委員などの責任を忠実に果たす。		0.20	1) おおむね月2回ペースでの学科会議での情報工学科運営を実現できた。多忙な教員も多く、なるべく会議時間を減らす努力を継続できた。 2) 学科長としての、きめの細かい対応をほぼ1年通して実行できたと思っている。
進路 指導	0.10	1) 研究室や周辺学生達の社会性をはぐくみながらの進路指導を実施		0.10	1) 経済的理由で卒研生1名が途中退学となったが、その他学生達は順調に進路が決定できた。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		名嘉村 盛和	所 属		工学部 情報工学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.30	<p>専門教育はJABEE基準の授業を行う。アルゴリズムとデータ構造、並列分散処理では、プログラミング能力向上を意識した内容にする。モデリングと設計では、PBLの教育効果があげられるような工夫を行う。卒業研究、セミナーでは学習教育目標を高いレベルで達成できるよう細かい指導を行う。enPiTと連携して大学院の実践系授業を実施する。 進路指導担当として就活サポートをしっかりと実施する。</p>		0.30	<p>担当する全ての科目においてJABEE基準の授業(教育内容および達成度評価)を行った。モデリングと設計では、受講学生による技術プレゼンを導入し学生の積極的な授業参加を促した。アルゴリズムとデータ構造では、再履修生用のクラスも別途開講し、少人数教育により基礎から教育する工夫を行った。卒業研究では個別指導の回数を増やし従来より細かい指導を行うことができた。大学院教育ではenPiTと連携して高度な実践教育を実施した。学科の進路指導担当として学科学生に対する就活サポートを行った。</p>
研究	0.40	<p>システム数理、最適化計算、並列処理に関する研究を引き続き推進する。またバイオ情報処理等、学際的なテーマ、および産学連携研究にも積極的に挑戦する。研究成果はできるだけ論文誌、国際会議、国内研究会で報告する。学会活動として電子情報通信学会システム数理とその応用研究専門委員会副委員長として当該分野の研究を推進する。</p>		0.40	<p>国際会議5件発表、和文解説論文1件が掲載済み、国際ジャーナル1件が現在査読中となっている。また、電子情報通信学会システム数理とその応用研究専門委員会副委員長として全国各地で研究会を開催する等、当該分野の研究を推進した。さらに、県内企業との産学連携研究を2件実施し、それぞれ成果を上げた。</p>
社会 貢献	0.10	<p>沖縄県情報通信産業の発展に向けた産学官連携を推進する。人材育成にかかる沖縄県、民間の取り組みに積極的に参加する。</p>		0.10	<p>沖縄県の離島振興、情報通信産業の活性化に関する委員会等に積極的に関わった。ETロボコン運営委員、沖縄地区審査委員長の役割を通して若手エンジニアの人材育成活動を行った。</p>
管理 運営	0.20	<p>副学部長として、工学部の研究活動の推進を牽引するとともに、大学院教育の充実を図る。将来計画委員会委員として学部改組の計画を立てる。</p>		0.20	<p>副学部長として学部の研究活動の推進、評価、及び大学院教育の取りまとめを担当した。特に第2期の取りまとめとしての現況調査表等の作成を中心的に行なった。また、学部改組ワーキング委員として改組案作成に中心的に関わった。さらに、全学の大学院改革タスクフォース、ダイバーシティ推進会議、ハラスメント指針策定WGにおいても、積極的に活動した。</p>
	0.00			0.00	
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		長山 格		所 属		工学部 情報工学科		職 名		准教授	
領域	業務 ウェイト 比(予)	平成27年度 年度目標設定				業務 ウェイト 比(実績)	平成27年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.30	専門科目における学生の実践力向上を図る。データベースの講義では実践力を養うためフリーDBシステムを授業で活用する。数理計画とアルゴリズムでは、数値計算パッケージを用いた大規模計算演習を実施し、学生の応用力・実践力を養う。また、共通教育科目(情報科学演習)についても、新入生にわかりやすく、かつ実践的実習を重視した授業を行う。				0.30	講義(データベースシステム)(数理計画とアルゴリズム)では目標通りフリーDBソフトおよび数値計算パッケージを活用した講義を行った。事例に則した大規模な例題を多用する課題練習を重点的に行うことにより、学生の実践力の養成を図った。また、共通教育科目(情報科学演習)では実用に即した理解しやすい授業に努めた。				
研究	0.30	研究成果の査読論文発表を1本以上行うことを目指す。また、口頭発表を1件以上行う。国際会議実行委員として企画運営等を行う。研究分野に関する著書執筆作業を進める。さらに、科研費などの競争的外部資金の獲得を目指す。				0.30	査読論文を1本、研究会発表2件、支部研究発表1件を実施した。競争的外部資金として科研費補助金(基盤C)を継続して獲得した。IEEE IHMSP2015(Adelaide, Australia)のプログラム委員として国際会議の運営に参画した。また、指導学生の電気学会論文発表奨励賞の受賞。新しい著書の企画執筆作業を進めている。				
社会 貢献	0.20	各種学会の実施と運営を行う。日本学術振興会等の委員を務め、学術振興事業への貢献、学会集会の計画・実施、ならびに産学交流と社会貢献を行う。さらに、国際会議等の運営委員を担当する。また、地域貢献への対応として社会人等を対象とする公開授業を提供する。				0.20	電気学会論文査読委員を務めた。学振審査委員候補(今年度審査担当無し)受任。IEEE国際会議の論文レフェリーを担当した。また、社会人向け公開授業(マルチメディア情報処理)を提供した。高校生向け公開授業(数理計画とアルゴリズム)を提供した。また、某民間企業および琉球大学防災センター・ラボと防災システムに関する調査研究実施を協議中。				
管理 運営	0.10	大学入学試験委員、学部教授会、研究科委員会、学科委員、学生相談員などの委員会活動およびFD活動に積極的に参加する。				0.10	教授会、学内委員会、FD講演、学部改組委員会など各種委員会活動に積極的に出席した。また、入試2次試験数学委員を努めた。				
進路 指導	0.10	学生の進学・就職・進路指導・相談等を積極的に行う。また、修士および4年生に対してはゼミ・面談等を通じて進路指導・修学指導を多面的に行う。				0.10	学生の進学・就職・進路指導などゼミおよび個別に学生相談を実施した。				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		岡崎 威生	所 属		工学部 情報工学科	職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.35	WebClass活用による学生個別の学習状況提供と、例題や演習を多用して講義方法を改善する。 教職志望学生の個々の特性を活かしながら社会性と実践能力を養成する。 研究室学生に対する面談を通して、企業動向や就職活動の心得等を伝え、キャリア設計と創発的活動の向上に取り組みさせることで社会的スキルの獲得を促す。 留学生を交えて英語によるコミュニケーション機会を増やす。			0.35	Webclass機能を利用して学生個別の修学レベル提示を逐次行った。例題と演習を多用した授業方法により知識の定着に努めた。ビデオ教材提供は継続して行ない、学生の復習に効果をあげた。教職科目「教職実践演習」を企画・実施し4年次教職志望学生に対する資質検証を図った。4年次に対する卒業後進路指導・相談を行い自己啓発を促進した。研究室学生に対し個人面談を行い、学修状況と進路希望や家庭環境を把握し、学修指導を行なった。4年次に対して面談を通して就学進路希望状況を把握し、社会人スキル獲得のための指導を行った。大学院での講義を英語で実施し、留学生と日本人学生双方のコミュニケーション活性化を図った。		
研究	0.35	大学院学生と共に研究論文を3本以上投稿し採択を目指す。 日本計算機統計学会の国際ワークショップ実行委員として運営に努めるとともに、研究領域の拡大・深化を行う。 関連企業との共同研究を進める。			0.35	研究論文を3本投稿し1本が査読付き論文誌に採択され、1本が査読付き国際会議に採択された。不採択の1本は再投稿中である。国際ワークショップ実行委員として大会運営に貢献した。企業との共同研究において、継続テーマに加えて新規テーマを立ち上げ、研究交流を活発化させた。		
社会 貢献	0.20	高大連携事業(プレ実習とインターンシップ生支援)に取り組み、高校生の進学意識向上を支援する。 公開授業や人材育成事業に参画し、高度職業人養成に貢献する。 学生を交えて社会ボランティア活動(ビーチ清掃等)に取り組み。			0.15	沖縄県立美来工科高等学校との高大連携事業において、教職志望学生による授業実践と高校生インターンシップ支援を行なった。学生と海浜清掃活動を企画実施した。企業からの技術相談にに対し、産学連携の公募案件に1件参画した。デジタルコンテンツ制作者人材育成事業へ協力し、県内学生向けセミナーを支援し、ハッカソンイベント審査員を担当した。		
管理 運営	0.10	IT戦略室室員として、大学全体の情報ガバナンスに寄与する。 学科入試委員と計算機委員などの委員会活動に積極的に参加し、学科運営に貢献する。 教員養成運営委員として教員資質の向上に貢献する。 オンライン授業評価が適切に実施できるよう指導する。			0.15	教員養成運営委員として教員志望学生ポートフォリオ指導や手引き作成を行った。グローバル教育支援機構共通教育部門副部門長としてクォーター制導入や定期試験不正行為防止等の企画運営に携わった。教務情報システム仕様策定委員会において、学内調整や委員会運営等の委員長として責務を果たした。工学部改組に伴う教員免許課程認定申請作業に携わり、学部内調整と文部科学省対応を行った。工学部交通指導委員として学部内交通安全の確保に貢献した。学科オンライン授業評価の実施を指導し全教科で実施した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		吉田 たけお	所 属		工学部 情報工学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.35	学部担当科目(情報工学実験Ⅰ～Ⅳ)を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。学生による授業評価アンケートの集計結果に基づき、授業内容および補助資料の改善を行う。			0.35	授業評価アンケート等の結果に基づき、授業内容および補助資料の改善を行った。今後もより一層改善をする必要があるが、今年度の目標は達成したと考える。		
研究	0.30	新規研究テーマでの学会発表および研究論文の採択を目指す。また外部資金を獲得し、実社会に応用できる技術の研究開発に努める。			0.30	新規研究テーマについて、電子情報通信学会の合同講演会において発表を行った。その際に受けた指摘事項に基づいて、新たなデータ収集を行っているため、まだ論文誌への投稿には至っていないが、早急に投稿できるように努める。また外部資金に関しては、今年度は獲得できなかった。		
社会貢献	0.05	毎年、沖縄県内で開催されるLSIデザインコンテストの実行委員を務める。			0.10	LSIデザインコンテストは、現時点で未実施であるが、2016/03/11に実施予定である。		
管理運営	0.15	学部安全衛生委員、学科入試委員、学科オープンキャンパス委員、学科計算機実験委員などの委員会活動に積極的に参加する。			0.15	全ての委員会に積極的に参加し、貢献を行った。		
進路指導	0.15	学部1年次の指導教員として、当該学生に対する進路指導、修学指導に努める。研究室に所属する学生に対する進路指導に努める。			0.10	学部1年次の指導教員として、当該学生に対する進路指導、修学指導を行った。また、研究室に所属する学生に対しても進路指導を行った。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		宮里 智樹	所 属	工学部 情報工学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.20	学科担当科目(情報工学実験1、2、3、4)を担当し、エンジニアリングデザイン教育の導入を試験的に行う。修士の実践演習Ⅰ、Ⅱの適切な実施に向けた支援を行う。		0.20	学科担当科目(情報工学実験1、2、3、4)を担当し、実験2、3においてエンジニアリングデザイン教育の導入を試験的に行った結果、学生の自発的な活動を引き出した。修士の実践演習Ⅰ、Ⅱに関しては、積極的に関わる事ができなかった。次年度はスケジュール管理に配慮し、関わり方を改善したい。	
研究	0.30	大学院博士過程の学生と共に研究論文の採択を目指す。外部資金については、文科省による「成長分野等における中核的人材養成等の戦略的推進」事業への応募を検討する。		0.30	大学院博士課程の学生と共著で論文(1編)を執筆し採択された。連携企業との共同研究を継続し、実社会に応用出来る技術の研究開発に努めたが、具体的な外部資金獲得には至らなかった。国建システムと名嘉村研究室との共同研究として、沖縄TLOライフスタイルイノベーション創出推進事業に昨年度から継続採択され、「電子見守りシステム」を共同で開発した。	
社会貢献	0.20	伊江島地域WiMAXインフラの保守運用に関する技術的サポートを行い、離島環境における情報通信インフラを活用した地域活性化支援を行う。教育者研究会や琉球大学教員免許状講習の運営サポートを行う。		0.20	伊江島地域WiMAXインフラの保守運用に関する技術的サポートを行い、離島環境における情報通信インフラを活用した地域活性化支援を行った。教育者研究会や琉球大学教員免許状講習(本島1回、宮古島1回)の運営サポートを行った。	
管理運営	0.30	年次指導教員や、教務委員、計算機実験委員、広報・図書委員などの委員会活動に積極的に参加する。		0.30	修士2年の年次指導教員や、教務委員、計算機実験委員、図書委員などの委員会活動に積極的に参加した。特に、図書委員での活動では工学部パンフレット、大学パンフレット等における学科取りまとめを行った。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	長田 智和		所 属	工学部 情報工学科	
職 名	准教授				
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	講義科目「情報ネットワークⅠ」では、教科書に基づいて基本的な情報システム・情報ネットワーク技術について分かりやすく講義する。同「情報ネットワークⅡ」では、情報システム・情報ネットワークの応用技術について講義する。情報工学実験Ⅰでは、実機を用いた基本的なネットワーク構築のスキルを習得させる。同Ⅲでは、学科計算機システム管理を通して、実践的な情報システム構築管理のスキルを習得させる。研究ゼミでは、情報システム・情報ネットワーク技術に関する実践的な研究テーマについて学生に取り組ませる。学生支援については、担当学生が希望する進路(就職・進学等)に進めるよう、積極的にサポートする。特に、就職希望の学生に対しては、就職試験対策(履歴書チェック、面接対策等)を積極的に行う。	0.30	講義科目「情報ネットワークⅠ」「情報ネットワークⅡ」ともに設定した目標を達成できた。特に、情報ネットワークⅡでは恒常的に不出席の者を除いて全員の単位を認定することができた。また、実験科目「情報工学実験Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」についても設定した目標を達成できた。なお、講義科目、実験科目の学生からの評価は、実施方法、評価方法等、概ね学生から高い評価を得ている(授業評価アンケートより)。研究ゼミについても、設定した目標を達成できた。なお、今年度は年度途中で研究室を移籍してきた学生が合流した。この学生は研究態度に難があったが、粘り強く指導を継続(現在も継続中)し、卒研・セミナーの単位を認定することができた。学生支援についても積極的に行い、研究室に所属するB4,M2全員の進路を決定することができた。	
研究	0.30	情報システム・情報ネットワーク技術を活用した、地域における情報サービス基盤(SDN/クラウド技術やID連携技術など)構築に関する研究を推進する。その過程において、研究会発表、さらには、成果論文発表(ジャーナルへの投稿)に向けて開発成果を蓄積する。 (成果目標:ジャーナル2編以上、口頭発表3件以上)	0.30	ジャーナル掲載数:3編、口頭発表:3件となり、設定した目標を達成できた。	
社会 貢献	0.10	工学部が沖縄県警と締結した「サイバー犯罪対策に係る連携した取り組みに関する協定」に基づき、国民・県民に対するサイバー犯罪の防止のための捜査員研修や社会への啓発活動に取り組む。	0.10	左記の目標を達成できた。また、情報セキュリティ教育に関する地域コミュニティ立ち上げについて提案中であり、今後、総合事務局と協力して組織立ち上げに向けて行動していく予定である。	
管理 運営	0.30	学科各種委員会の業務を率先してこなし、円滑な学科運営に貢献する。また、学科情報システム担当教員として、本年10月に更新される新学科システムの構築を指揮し、旧システムからのスムーズな移行と安定運用及び改善に努める。さらに、全学の情報システム運営委員、セキュリティ運営委員、IT戦略室員としての職務も、自身の専門性を生かして積極的に取り組む。	0.30	左記の目標を達成できた。特に、昨年10月に実施した学科情報システムのリプレースでは、システム管理チームの学生と一体となって、システムリプレースに取り組んだ。その成果はマスコミ報道でも取り上げられ、社会的にも高い評価を受けることができた。	
	0.00		0.00		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		遠藤 聡志.	所 属		工学部 情報工学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.35	<p>学部専門:線形代数、ソフトコンピューティング、人工知能、キャリア実践 共通教育:情報科学演習 大学院情報専攻:複雑系工学論 シラバスを活用し、計画的に実施する。Webcassを活用し履修者の理解度を適宜把握しながら講義を進行する。 改組によるカリキュラム改定について、とくに人工知能系科目の内容について姜先生、當間先生らと新シラバスを作成する。</p>		0.35	<p>予定科目を実施した。人工知能の講義では、新たにDeep Learningの技術紹介と演習を取り入れ、最新の技術を学ぶ機会を提供した。授業評価アンケートでは概ね良好な評価を得ている。この内容を新カリキュラムに盛り込む予定にしている。 大学教育センターの教育改善等推進経費により、キャリア実践でのグループワーク、線形代数でのグループ演習、人工知能でのグループワークなどアクティブラーニングを実践した。</p>
研究	0.35	<p>ディープニューラルネットによる感情推定技術の開発、ツイッターマイニングによる人物像推定技術の開発を行い関連学会で成果を公表する。 人工知能学会大会、FANシンポジウム、情報処理学会等での成果発表を予定している。</p>		0.40	<p>人工知能学会全国大会およびAROB国際会議において、Twitter miningに関する成果、Deep Neural Netによる感情推定の研究成果を公表した。 沖縄高専(佐藤研究室、玉城研究室)と複雑系工学研究会を赤嶺助教らと2度開催し、卒業研究テーマを中心とした研究交流を行った。</p>
社会 貢献	0.10	<p>京都大学とのデザインスクールを活用した県内高校生と大学生によるイベントの企画、実施。 アクティブラーニングによるビジネスコミュニケーション教材の学外者との共同開発。</p>		0.05	<p>京都大学との合同デザインスクールを沖縄市との連携で実施した。最終発表会は公開とし、商店街組合や沖縄こどもの国の関係者らと意見交換を行った。 ビジネスコミュニケーション教材によるワークショップ型講義をキャリア実践講義で実施した。</p>
管理 運営	0.20	<p>総合知能専攻主任 学生部学生生活委員会 工学部委員 工学部施設環境委員会委員 学科教育委員会委員、施設委員</p>		0.20	<p>総合知能専攻の主任、学生部学生生活委員会委員、工学部施設環境委員会委員、学科教務委員および学部教育委員会委員、教員選考委員にかかる業務を行った。</p>
	0.00			0.00	
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)													
名 前		山田孝治.		所 属		工学部 情報工学科		職 名		教授			
領域		平成27年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)		平成27年度 年度末自己点検結果					
教育・ 学生支援		0.35		1年次の指導教員として、サポートを積極的に行う。授業に関しては、資料の充実に加え、学生の実体験向上型の授業に努めたい。昨年に引き続きプロジェクトデザイン2を担当するので、昨年度成果を分析する形で授業を進める。学部:ソフト演習1, プログラミングII, 情報工学実験3, 4, 情報科学演習, 知能ロボット, 大学院:知能ロボット論, Intelligent Robotics, 博士後期:創発知能ロボット工学特論を担当する。大学改善経費からの学習サポート支援も継続的に行う。				0.35		<ul style="list-style-type: none"> ・1年次指導教員として、サポートを行った。 ・昨年に引き続き、プロジェクトデザイン2での成果をYouTubeに発表できた。視聴回数は伸びていないので、広報する必要がある。 ・昨年に引き続き、大学院生の学習サポートを行った。 			
研究		0.30		昨年度までの研究に区切りをつけ、新たな研究に取り組みたい。教務の仕事と関連するが、学科での利用を考慮に入れたEポートフォリオのための研究ノートシステム、トレンドなドローンの研究など、新規立ち上げと発表に努める。				0.30		<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表は、6件程度だったが、H26年12月の学生の発表により、H27年12月に電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション賞を受賞した。 			
社会貢献		0.10		例年行っている小中学生に向けたロボット工作教室を開催する。				0.05		今年度は、例年行ってきたロボット工作教室を開催できなかった代わりに、株式会社シーエー・アドバンスと共同で、沖縄県の小学生を対象とした産学連携プログラミング推進活動Digital Kids Okinawaを開始した。			
管理運営		0.15		教務委員長、URGCCO委員会他。それぞれ他の教員を患わせることなく、状況を良くできるように対応する。また、昨年度に引き続き工学部高専連携委員会委員長として、今年度も高専との学生研究発表会を成功させ、高専との共同研究の拡張を進める。				0.20		<ul style="list-style-type: none"> ・教務委員長として、委員及び学科長の協力により、取り組んだ。 ・特に教職申請書類作成、現況調査表作成に手間を要した。 ・高専連携委員として、高専発表会を開催した。 			
進路指導		0.10		卒研配属生に大学院進学を勧める。生徒のコミュニケーション能力の向上を考え対話時間を増やす。				0.10		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の卒研は無難に進行することができた。 ・進学は1名だが、高専から1名呼び込むことができた。 ・進学希望だった学生が沖銀に取られたのは仕方のないところか。 			
計		1.00		<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00		<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		高良 富夫	所 属		工学部 情報工学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.40	シラバスに示したとおりの学科の学習教育目標に沿った内容と方法、評価基準・方法により、学部担当科目および大学院科目を担当し、効果的な講義を行う。プロジェクトベース学習を推進する。自分の研究成果を活用してデモを行い、おもしろい講義を進める。学内FD活動に積極的に参加する。「科学者の倫理」の教育を推進する。「プロジェクト・デザイン」において、将来の就職を見据えた進路指導を行う。研究室の学生の進学・就職指導を行う。		0.40	シラバスに示したとおりの学科の学習教育目標に沿った内容と方法、評価基準・方法により効果的な講義を行った。「プロジェクトデザイン」において、プロジェクトベース学習を推進した。「自然言語工学」において、自分の研究成果を活用してデモを行い、おもしろい講義を進めた。学部FD活動に積極的に参加した。「科学者の倫理」の講義を担当した。「プロジェクト・デザイン」において、将来の就職を見据えた進路指導を行った。研究室の学生が進学することになった。
研究	0.30	学生と共に研究論文を投稿し採択を目指す。科研費の研究テーマを推進する。国際学会及び国内学会で発表する。他大学と連携した研究を継続する。企業等と連携した研究を行う。		0.30	学生と共に研究論文を目指した研究テーマを推進した。科研費の研究テーマを推進し、国際学会2件、国内学会2件研究発表を行った。情報教育、動物の音声に関し他大学・他学部と連携した研究を行った。琉球語の音声合成に関するテーマで企業と連携した研究開発を行った。
社会 貢献	0.10	県内でのIT関連審議会に参加する。福祉関係の学校の非常勤講師を務める。公開授業・出前授業を提供する。教員10年研修を提供する。海外の協定校と交流を行う。		0.10	県内で国のIT関連審査会に参加した。福祉関係の専門学校で「音声情報処理」の非常勤講師を務めた。公開授業を提供し、5人の社会人受講者があった。「話しことばの実験室」と題して教員10年研修を提供した。ミャンマーの協定校主催の国際会議で招待講演を行い、交流を深めた。
管理 運営	0.20	学科入試委員長として、AO入試・3年次編入入試・推薦入試・大学院前期課程入試が効果的に行われるよう、入試委員と協力して精力的に取り組む。		0.20	学科入試委員長を務め、事務と協力してスムーズに進めた。AO入試・3年次編入入試・推薦入試・大学院前期課程入試・外国人特別入試が効果的に行われるよう、入試委員に指示し、精力的に取り組んだ。特に推薦入試では委員長の寄与も大きかった。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		赤嶺 有平	所 属		工学部 情報工学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	情報工学実験1において実施しているプログラミングに関する実験において1年次におけるプログラミング学習の躰きをフォローできるように改良する。			0.20	プログラミングそのものに興味をもってもらうため、コーディングの課題だけではなく、様々な環境におけるプログラムコードの実効速度を比較する実験を試験的に導入し、学生の反応は良好であった。ただし、オブジェクト指向のコーディングに関する課題については、学生からの意見もあり、実施時期について検討の必要がある。		
研究	0.60	拡張現実技術に関する研究を進め、観光案内アプリケーションへの応用を目指す。			0.60	複数の手法を用いて城跡等屋外観光施設において利用可能な重畳表示手法の開発を行った。同手法をVR学会において発表した。また、交通システムに関する論文を2件投稿し、再録された。		
社会 貢献	0.10	拡張現実アプリケーション作成をテーマとして産学連携を模索する。			0.10	現時点では連携に至っていないが、関連手法に研究に進展があったため、次年度は連携につなげていきたい。		
管理 運営	0.10	各種委員の業務を適切に遂行する。			0.10	各種委員の業務を適切に遂行した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		當間 愛晃	所 属		工学部 情報工学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.52	(1)卒業研究およびセミナーを担当し、研究活性化に結びつくよう学生指導に努める。例年通り、沖縄高専との連携強化に向けた取り組みを検討する。 (2)URGCC、エンジニアリング教育、時代の流行や今後求められるノウハウを考慮し、新カリキュラムのプログラミング1.2及び人工知能系科目の企画検討、実験III/IVのテーマ(データマイニング班)の改善に取り組む。 (3)昨年度の申し送り事項を踏まえ、3年目となるデザインスクールの企画運営実行を行う。 (4)2013年度入学の年次指導教員として学生の意欲向上ならびに今期から加わる3年次編入生への指導、加えて卒業研究着手条件を見据えた履修計画指導に努める。 (5)2013年度学生への目標「目指す丘」探しをサポートする。		0.52	(1)担当科目の評価基準を明示し、達成できるよう指導した。また、沖縄高専との交流研究会を継続実施しており、互いに刺激し合えるよう努めた。 (2)プログラミング1,2の教科書選定ならびにシラバス検討を行った。達成目標検討の際には卒研生・院生からのヒアリング結果も加味した。今後は4月から始まる講義に向けて具体化を進める。実験3.4(データマイニング班)についてはコードレビュー・開発スタイル指導を実施できるよう、改善に努めた。 (3)結果論ではあるが、学生起業がちゆん・沖縄市といった学外組織との共催並びに討論を実現することができ、新聞にも掲載頂けた。4年目は日程がタイトになる(連休がない)こともあり、計画の練り直しが必要である。 (4)(5)個人面談・ML・ブログを通して指導に努めた。例外的な指導が必要な際には最大限努力を行った。
研究	0.43	(1)学術会議等イベント参加時の情報整理を兼ねたブログ記事の作成。 (2)大学院修士課程の学生と共に学会発表を通じた研究活動の公開並びに、研究発展を目指す。 (3)研究交流を行い、研究の幅を広げる。 (4)国際会議or査読付き論文への投稿を目指す。		0.43	(1)研究発表および聴講参加した情報処理学会全国大会、沖縄高専との交流研究会、卒業研究インタビューについて参加記録を整理し、ブログ記事として公開した。 (2)例年通り一人一回以上の学外発表を行っており、3月の発表を含めて合計4件の学会発表となる予定である。 (3)認知心理学等の調査を通じた新たな知見を得つつ、いくつかの研究討論を進めている。 (4)国際会議へは投稿できなかった。IEICEへ1件査読付き論文が掲載された。
社会 貢献	0.03	(1)教育研究活動の学外に向けた情報発信。 (2)社会連携委を通じた交流。		0.03	(1)学科ブログを通してイベント参加レポートを公開した。 (2)工業連合会、工学部後援会らと協力の上キャリア形成支援セミナー、就職説明会を実施した。また、屋我先生を中心としたCOCプログラムのシンポジウム運営をサポートした。組織的な取り組みとしてはまだまだ不十分だと感じるが、サテライトの存在や切っ掛け作りとしては一定の効果があったように思う。
管理 運営	0.02	(1)学科システムの stable な運用管理に努める(計算機実行委・ネットワーク委)。 (2)各種委員会活動に積極的に参加する。		0.02	(1)サポート的な立場でのトラブル／ヘルプ対応を行った。 (2)積極的に参加し、教務委／社会連携委／自己評価委等の運営業務を行った。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	